

バラフマテ *Solen roseomaculatus* Pilsbry

【選定理由】

本種は内湾の干潟の下部から潮下帯の砂泥底に潜って生息する。県内でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少し、潮下帯の環境も著しく悪化している。本種も、日間賀島の潮間帯や同島南沖水深 2-10 m の砂泥底より死殻がわずかに採集された(図 1)が、生貝は採集されていない(木村, 1996)。また、1999 年からの 3 回 (30 地点以上)、知多半島伊勢湾側から三河湾湾口部の海域をドレッジにより調査した結果、生貝は採集されず少数の死殻が採集されたにすぎない(木村, 2000; 木村, 未発表資料)。その後の調査でも生息が確認できない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。



1: 南知多町日間賀島南沖(ドレッジ水深 10-20 m), 1994 年 10 月 3 日, 木村昭一採集, 2: 伊勢湾湾口部鳥羽市沖(ドレッジ水深 10-20 m), 2015 年 4 月, 佐藤達也採集

【形態】

殻長約 50 mm、殻は前後に著しく延長した長方形で、背中側にそる。膨らみは弱い。殻はやや薄く、両端は裁断状となる。殻表全面に赤色の小斑が散在する。

【分布の概要】

【県内の分布】

生息場所、個体数が減少していて、近年生貝が採集されない。三重県側を含めた伊勢湾全域でも、近年生貝が採集されたのは、伊勢湾湾口部鳥羽市沖の幼貝(図 2) 数個体だけである。

【世界及び国内の分布】

日本、中国大陸、台湾、アフリカ東岸、オーストラリア等、熱帯インド・西太平洋と広い分布記録があるが、近似種との混同した可能性があり、再検討が必要である(福田, 2012)。国内では房総・能登半島以南に分布する(福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、個体数とも減少したと考えられる。死殻も稀で、危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 福田 宏, 2012. バラフマテ, p. 170. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
- 木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18-20. 名古屋貝類談話会.
- 和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)